

令和4年度

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

事業報告書

学校法人 菊武学園

I. 法人の概要

1. 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人 菊 武 学 園
- ② 主たる事務所の住所 〒488-8711 愛知県尾張旭市新居町山の田 3255 番地 5
T E L (0561) 55-3020 F A X (0561) 55-3021
ホームページアドレス：<http://www.kikutake.com/honbu>

2. 建学の精神

「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」

3. 学校法人の沿革

- 昭和 26 年 6 月 愛知県より菊武タイピスト学校（現：菊武ビジネス専門学校）設置認可
- 昭和 28 年 2 月 愛知県より学校法人高木学園（現：菊武学園）設立認可
- 昭和 37 年 2 月 学校法人高木学園を学校法人菊武学園に改称
- 昭和 37 年 4 月 守山女子商業高等学校（現：菊華高等学校）開設
- 昭和 40 年 4 月 名古屋女子商科短期大学（現：名古屋経営短期大学）開設
- 昭和 43 年 4 月 守山女子商業高等学校に通信制課程開設
- 昭和 44 年 4 月 菊武幼稚園開設
- 昭和 63 年 4 月 名古屋女子商科短期大学に経営情報科開設
- 平成 4 年 4 月 守山女子商業高等学校を菊華高等学校と改称し、全日制課程普通科開設。
- 平成 7 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンス開設
- 平成 12 年 4 月 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部開設
- 平成 16 年 4 月 名古屋産業大学大学院前期（修士）課程（環境マネジメント研究科）開設
名古屋産業大学環境情報ビジネス学部に人間環境マネジメント学科増設
- 平成 19 年 4 月 名古屋経営短期大学ビジネス実務学科・人間情報学科の募集を停止し、2 学科を
統合した形の総合ビジネス学科を開設。
名古屋産業大学大学院後期（博士）課程（環境マネジメント研究科）開設。
名古屋経営短期大学子ども学科開設。
- 平成 20 年 4 月 名古屋経営短期大学健康福祉学科開設。
- 平成 23 年 4 月 稲葉保育園開設、菊華高等学校にスポーツアクトコース開設
- 平成 24 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンスの校名を変更
専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院に改称する。
- 平成 26 年 4 月 名古屋経営短期大学総合ビジネス学科の募集を停止し、未来キャリア学科開設。
- 平成 27 年 4 月 菊華高校通信制課程普通科（単位制）開設
- 平成 29 年 4 月 名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部を現代ビジネス学部に改称
- 令和 3 年 4 月 名古屋産業大学現代ビジネス学部に経営専門職学科 開設

4. 設置する学校の学部、学科および各学校の入学定員、現員数

令和4年5月1日現在

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
名古屋産業大学大学院 名古屋産業大学	環境マネジメント研究科	前期課程 10人	20人	2人	16人
	環境マネジメント専攻	後期課程 3人	9人	1人	3人
	現代ビジネス学部				
	現代ビジネス学科	150人	690人	148人	714人
	経営専門職学科	40人	80人	13人	29人
名古屋経営短期大学	未来キャリア学科	100人	200人	47人	120人
	子ども学科	50人	150人	33人	92人
	健康福祉学科	60人	120人	16人	50人
菊華高等学校	全日制課程 IT ビジネス科	270人	810人	86人	160人
	全日制課程普通科	90人	270人	290人	711人
	通信制課程商業科	150人	450人	228人	598人
	通信制課程普通科(単位制)	80人	240人	14人	65人
菊武幼稚園		69人	209人	59人	175人
菊武ビジネス専門学校	商業実務専門課程	80人	80人	16人	16人
	商業実務高等課程	240人	720人	228人	598人
専門学校NWF B	商業実務専門課程	160人	280人	116人	212人
	文化教養専門課程	40人	80人	16人	37人
合 計		1,592人	4,408人	1,313人	3,596人

※学校名の専門学校NWF Bは、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院を言う

5. 設置する各学校の収容定員充足率の推移

各年度5月1日現在

学 校 名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
名古屋産業大学	64.0%	72.2%	92.1%	96.1%	96.4%
名古屋経営短期大学	55.9%	65.7%	72.4%	71.0%	55.7%
菊華高等学校	73.8%	70.8%	69.7%	74.9%	86.7%
菊武幼稚園	102.9%	103.8%	96.2%	89.9%	83.7%
菊武ビジネス専門学校	53.4%	48.5%	51.9%	62.6%	76.7%
専門学校NWF B	84.2%	77.5%	85.3%	79.1%	69.1%

※学校名の専門学校NWF Bは、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院を言う。

6. 役員に関する事項

当学園の令和5年3月31日現在の選任区分別理事及び監事は以下のとおりです。

寄附行為に定めた理事定数は8~11人、監事定数は2~3人で、欠員はありません。

理事現員数 10 人、監事現員数 2 人

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

職 名	氏 名	選 任 区 分	就 任 年 月 日	任 期	備 考
理 事 長	高 木 弘 恵	学 長	平成 21 年 4 月 1 日	学長退任時	常勤
常務理事	高 木 清 秀	学識経験者	平成 21 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
財務理事	山 口 淳	評 議 員	平成 21 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
理 事	山 岸 鳴 門	校 長	平成 22 年 4 月 1 日	校長退任時	常勤
理 事	鈴 木 悦 子	校 長	平成 27 年 4 月 1 日	校長退任時	常勤
理 事	渡 邊 哲 郎	評 議 員	平成 24 年 5 月 18 日	令和 8 年 3 月 31 日	非常勤
理 事	井 元 明 正	学識経験者	平成 4 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	非常勤
理 事	吉 田 雅 樹	学識経験者	平成 8 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	非常勤
理 事	岡 谷 篤 一	学識経験者	平成 14 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	非常勤
理 事	伊 藤 雅 一	学識経験者	平成 21 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
監 事	那 須 國 宏		平成 11 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	非常勤
監 事	水 野 武 文		令和 3 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	非常勤

7. 評議員に関する事項

当学園の令和 5 年 3 月 31 日現在の選任区分別評議員は以下のとおりです。

寄附行為に定めた評議員定数は、19~24 人で、欠員はありません。

なお、令和 3 年 3 月 31 日に辞任した 1 号評議員 神谷 篤 氏の後任には、菊武ビジネス専門学校 教頭の種村 淳 氏が就任しました。また、菊武幼稚園・園長 早川誠人氏が令和 5 年 3 月 31 日をもって退職されるのに伴い、1 号評議員を辞任することになります。後任の園長には、愛知県麺類食堂生活衛生同業組合の理事長を永年務められ藍綬褒章を受章された経験を持つ池本 厚氏が異業種経験しかないものの人物に問題なしとして就任することが令和 5 年 3 月 24 日の理事会で承認され、1 号評議員に推薦されています。

評議員現員数 23 人

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

職 名	氏 名	選 任 区 分	就 任 年 月 日	任 期	備 考
評議員	高 木 弘 恵	学識経験者	平成 20 年 12 月 5 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
評議員	高 木 清 秀	法 人 職 員	昭和 53 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
評議員	山 口 淳	法 人 職 員	平成 21 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
評議員	早 川 誠 人	法 人 職 員	平成 28 年 5 月 20 日	令和 8 年 3 月 31 日	3/31 辞任
評議員	豊 田 久 美 子	法 人 職 員	平成 31 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
評議員	中 川 信 子	法 人 職 員	平成 26 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤
評議員	内 山 哲 治	法 人 職 員	平成 24 年 4 月 1 日	令和 8 年 3 月 31 日	常勤

職名	氏名	選任区分	就任年月日	任期	備考
評議員	松原伸一	法人職員	平成31年4月1日	令和8年3月31日	常勤
評議員	加藤嘉彦	法人職員	令和2年5月20日	令和8年3月31日	常勤
評議員	浅井明己	学園卒業者	平成9年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	大石清美	学園卒業者	平成2年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	渡邊哲郎	学識経験者	平成11年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	高木重幸	学識経験者	平成4年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	竹内隆史	学識経験者	平成10年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	平本晴康	学識経験者	平成11年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	高木秀典	学識経験者	平成15年12月11日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	原田隆史	学識経験者	平成21年5月22日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	大嶋啓介	学識経験者	平成22年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	市橋豊	学識経験者	平成22年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	杉山寿美	学識経験者	平成22年5月21日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	志水咲子	学識経験者	平成28年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	須崎徳之	学識経験者	平成30年4月1日	令和8年3月31日	非常勤
評議員	種村淳	学識経験者	令和4年4月1日	令和8年3月31日	常勤

8. 教職員に関する事項

(令和4年5月1日現在教職員数等)

学校名	教員区分	人数	平均勤続年数	平均年齢	職員区分	人数	平均年齢
名古屋産業大学	本務教員	34人	10年5か月	57歳3か月	本務職員	23人	50歳6か月
	兼務教員	46人	7年8か月	55歳3か月	兼務職員	10人	59歳10か月
名古屋経営短期大学	本務教員	24人	6年8か月	55歳11か月	本務職員	13人	42歳2か月
	兼務教員	33人	6年9か月	60歳4か月	兼務職員	6人	48歳5か月
菊華高等学校 (全日制・通信制)	本務教員	58人	13年1か月	41歳5か月	本務職員	9人	40歳5か月
	兼務教員	40人	4年6か月	50歳6か月	兼務職員	4人	67歳10か月
菊武幼稚園	本務教員	9人	9年5か月	30歳11か月	本務職員	2人	49歳3か月
	兼務教員	3人	5年0か月	55歳11か月	兼務職員	3人	51歳7か月
菊武ビジネス専門学校	本務教員	19人	10年3か月	41歳0か月	本務職員	2人	49歳8か月
	兼務教員	10人	7年11か月	50歳11か月	兼務職員	0人	
専門学校NWF B	本務教員	8人	6年7か月	45歳1か月	本務職員	6人	43歳4か月
	兼務教員	33人	5年10か月	50歳6か月	兼務職員	3人	53歳3か月

※学校名の専門学校NWF Bは、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院を言う。

9. その他

各学校（稲葉保育園を含む）の状況については、次頁以降の事業の概要のとおりです。

II. 事業の概要

1. 令和4年度の各学校の入学者数と在籍者数

令和4年度（令和4年4月）の入学者数は、大学が大学院も含めて164名（目標200名対比82.0%）、短大が96名（目標205名対比46.8%）、高校（全日制・通信制）が618名（目標490名対比126.1%）、幼稚園が59名（目標72名対比81.9%）、菊武ビジネス専門学校が244名（目標200名対比122.0%）、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院が132名（目標180名対比73.3%）で学園全体の入学者数は、1,313名（目標1,437名対比91.3%）となりました。

令和4年5月の在籍者数は、大学が762名（目標750名対比101.6%）、短大が262名（目標385名対比68.3%）、高校（全日制・通信制）が1,534名（目標1,360名対比112.8%）、幼稚園が175名（目標209名対比83.7%）、菊武ビジネス専門学校が614名（目標500名対比122.8%）、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院が249名（目標300名対比83.4%）となり、学園全体の在学生総数は前年度より195名多い3,596名（目標3,524名対比102.0%）となり、学園全体としては、目標を達成することができました。

2. 令和4年度の各部門の事業概要

【学園本部】

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながらでしたが、with コロナの体制にも慣れ、菊武夏祭りと同例年例月の学園研修を計画しました。

4月：「令和4年度の学園の教育・運営方針と新年度の目標値説明、各部門の新年度基本方針発表」

6月：講演会とスポーツ大会の2部制で実施。

第1部は、おてらおやつクラブ理事である野田芳樹氏（林昌寺副住職）を講師に迎え

「子どもの貧困を救うためのボランティア活動について」をテーマに講演会を実施。

第2部は「部門対抗ソフトバレーボール大会」を大学・短大の体育館で実施。

8月：「菊武夏まつり」を3年ぶりに実施。

9月：報告会、講演会、料理で交流会の3部制で実施。

第1部は、「東北ボランティアの活動報告」

菊華高等学校と菊武ビジネス専門学校の生徒で構成する「チームTSUBASA」が報告

第2部は、「ウクライナについて学ぼう」

NPO法人日本ウクライナ文化協会の川口リュドミラ理事長が講演

第3部は、「ウクライナ料理を作ろう」

短大4号館2階家政調理室でウクライナ避難民の方とボルシチを作りました。

1月：理事長 年頭所感2023の後、三森ゆかり氏が「正しい言語表現」をテーマに講演

3月：新たな気持ちで新年度を迎えるために、「KPT」（ケプト）を活用した「一人ひとりが令和4年度に取り組んできたことの振り返り」とグループディスカッションを実施。

【名古屋産業大学】

(1) 大学の主な教育・研究の概要

・「卒業の認定に関する方針」

「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」を建学の精神とし、本学の学位プログラムの課程を修め、卒業に必要な所定の124単位の単位取得を満たしたうえで、学則第1条に定める「誠実にして、創造性に富み、専門的能力を身につけた、産業社会で活躍できる人材を育成する」ことを目的にしています。

その実現のために、様々なビジネスシーンの問題解決に応用できる知識と社会人基礎力などの能力・資質を修得し、それらを活かして産業・経済の発展に寄与できる人材を育成することを教育目標とします。

・「教育課程の編成及び実施に関する方針」

大学は、次に挙げる考え方で教育課程を編成し、実施します。

- ① 現代ビジネスを担う専門能力と社会人基礎力を養成することを目的とし、学生一人ひとりの顔が見える少人数で学生参加型の演習・実習などを重視した授業編成を行います。
- ② 大学における学びの基礎となる基礎的読解力や文章表現力などを習得させるため、初年次段階において少人数で学ぶ教養ゼミナールなどを設けます。
- ③ 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解、心身両面の健康づくり、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
- ④ 各自の専攻分野以外の領域について、知への興味や関心を引き出す教養教育を実施し、専攻分野に関する理解の一助とするとともに、豊かな人間性を育み、物事を深く考えるための知的基盤形成を促します。
- ⑤ 専攻分野に関する知識及び論理的思考方法を習得できるよう、専攻分野のカリキュラムでは、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
- ⑥ 各自の専攻分野に関する知識を社会でどのように活かしていくかを考えるキャリア教育、並びにキャリア形成支援を継続的に実施します。
- ⑦ 在学中の学習成果を集大成する仕組みとそれを評価する取組みを、学部・学科において工夫し、実践します。

・「入学者の受け入れに関する方針」

大学では、産業社会で活躍できる人材の育成を目的として、意欲のある人をできるだけ幅広く募り、多様な入試形態を用意しています。この受け入れ態勢のもと、学位授与の方針（DP）及び教育課程編成の方針（CP）に定める教育を受けるための条件として、以下に掲げる人を求めます。

- ① 大学の教育目的である「誠実にして創造性に富み、専門的能力を身につけた、産業社会で活躍できる人材の育成」に共感し、自ら本学の教育理念の実現に向けて努力できる人
- ② 新たなビジネス創造にチャレンジする情熱と意欲にあふれた人
- ③ グローバルとローカルな視点で社会への理解を深め、ビジネスでの活躍をめざす人

(2) その他

新型コロナウイルスの感染対策に取り組みながら授業やクラブ活動、各種行事等を行いました。3年ぶりとなる大学祭や卒業記念パーティーの開催、東北ボランティア隊の派遣など、キャンパス内に活気が戻ってきました。日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、適正評価判定を得ることができました。教育の質を保証する体制と、学生への丁寧な対応が高い評価を得ています。

地域連携にも力を入れ、相続税やプログラミングなど多彩なテーマの市民向け公開講座を6月から9月に開催しました。ワクチン職域接種も令和3年度から継続して行い(4, 11, 12月)、多くの地域の方にご利用いただきました。また、尾張旭市の「平子の森トライアル事業」共同事業者に採択され、ドローン教育や環境教育の実践の場としています。さらに尾張旭市内企業のご厚意でミニドローン100台を寄贈いただき学園内で活用しています。

学生募集においては、令和5年4月は学部の入学定員190名に対し165名の入学となり定員数を下回りました。3年目を迎える経営専門職学科は入学定員40に対し入学者数15名と、開設以来低調な状況が続いています。3回目の開催となるビジネスデザインコンテストの拡充や新設するSDGs入試のPRなど広報活動を強化し、定員確保に取り組んでいきます。

○主な行事

4月：入学式、新入生オリエンテーション

6～9月：公開講座

8月：ビジネスデザインコンテスト

9月：秋学期学位記授与式、入学式(育達科技大学ダブルディグリー学生3名受入)

10月：大学祭、大学機関別認証評価(実地調査)

12月：環境フォーラム、四短合同KIKUTAKEルミナ

1月：卒業研究発表会

3月：学内合同企業説明会、東北ボランティア隊、学位記授与式

○クラブ活動

<ウエイトリフティング部> ・全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会(2部・11月4日)

・兵庫正勝(73kg級)1位、三宅敬之(109kg級)1位、河原庄(+109kg級)1位

・団体総合得点116点 ⇒ **一部昇格**

<野球部> ・愛知大学野球連盟リーグ戦三部優勝 ⇒ **二部昇格**(10月25日)

<サッカー部> ・東海学生サッカーリーグ ⇒ **一部継続**

<ボウリング部> ・岩元美咲希 6/24 東日本ボウリング選手権大会優勝ほか入賞多数

○主な就職先

陸上自衛隊、JAとぴあ浜松、JAとうと、JA大阪中河内、名鉄運輸、イビデン、名古屋共立病院、横浜ゴム、スズケン、サガミホールディングス、TBCグループ、ウェルシア薬局、サンドラッグ、ビッグモーター、ワタキューセイモア、和光、瀧富工業、YKSホワイトキングス(プロ野球)、など

【名古屋経営短期大学】

(1) 短大の主な教育・研究の概要

・「卒業の認定に関する方針」

卒業の要件として、学生は2年以上、ただし子ども学科は3年以上在学し、未来キャリア学科は未来キャリア学科の教育課程表に定めるところの65単位以上、子ども学科は子ども学科の教育課程表に定めるところの97単位以上、健康福祉学科は健康福祉学科の教育課程表に定めるところの65単位以上を修得しなければならない。

・「教育課程の編成及び実施に関する方針」

各学科は、次に掲げる考え方で教育課程を編成し、実施します。

- ① 未来キャリア学科は、社会の中で求められる豊かな教養と幅広い実務知識や実践的な資格を修得し、豊かな人間性に富んだ人材を育成する。
- ② 子ども学科は、教員や保育士を目指し、高い専門性と豊かな人間性に富んだ人材を育成する。
- ③ 健康福祉学科は、介護福祉士を目指し、専門的な知識や技術を修得し、人間性に富んだ人材を養成する。

・「入学者の受け入れに関する方針」

短大が求める学生は、以下のような「総合性と専門性を高められる人」である。

- ① 人間的魅力と豊かな教養を身につけようとする人
- ② 自分が希望する職業について、専門的知識やスキルを積極的に身につけ、卒業後実社会で活躍する意欲のある人
- ③ 他人に対する優しさを持ち、自ら考え、自らの責任で行動できる人

学科が求める学生は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識、技術、能力、目的意識、意欲を備えた人物を求めます。

- ① 社会問題に対して、知識や情報をもとに筋道を立てて考えることができる。
- ② 高等学校での教育課程を幅広く修得している。
- ③ 希望の職業について、専門的な知識や技能、幅広い教養を積極的に身につけ、卒業後は社会で活躍する意欲がある。

(2) その他

新型コロナウイルスの感染対策に取り組みながら授業やクラブ活動、各種行事等を行いました。3年ぶりとなる大学祭や卒業記念パーティーの開催、東北ボランティア隊の派遣など、キャンパス内に活気が戻ってきました。市民向け公開講座も継続して開催し、アロマセラピーや子育て、介護福祉など毎日の暮らしに役立つ多彩な内容の28講座を展開しました。

学生募集においては、定員数の変更を行ったものの、令和5年4月の未来キャリア学科の入学人数が41名（入学定員70名）、子ども学科が26名（同50名）、健康福祉学科が14名（同30名）と3学科とも大幅に定員を下回っており、学生募集の強化が最重要課題となっています。健康福祉学科については令和6年度より介護福祉学科に名称変更する届け出を行いました。名称変更により教育研究の内容をより明確にしたうえで、オープンキャンパスへの参加を呼び掛けるために入試広報活動を早期より行います。特に入試広報重点校に指定した高校とは進路指導教員との信頼関係を強化し「顧客化」を目指します。

主な行事

- 4月：入学式、新入生オリエンテーション
- 7月：ひまわりプロジェクト（ウクライナ支援活動）
- 9月：同窓会、秋学期学位記授与式
- 10月：大学祭、東海北陸厚生局指導調査（→是正事項なし）
- 10～12月：公開講座実施
- 12月：四短合同 KIKUTAKE ルミナ
- 3月：学内合同企業説明会、東北ボランティア隊、学位記授与式

主な就職先

ジェイアール東海パッセンジャーズ
瀬戸信用金庫
ブリヂストンリテールジャパン
星が丘自動車学校
東海合金工業
ホンダカーズ岐阜
林整形外科クリニック
サマンサタバサ
ジャパンリミテッド
清水会
クスリのアオキ
明峰会
学校法人 菊武学園、
春日井市/瀬戸市（保育職）など

【菊華高等学校】

令和4年度は、平成12年度以降24年ぶりに入学生が350人を超え376人が集まった。少子化の中、これだけの入学生を迎えたことは中学卒業生人口から見ても過去に例がない躍進である。そして令和5年度の生徒募集についてはさらなる躍進と、教育の充実を目指して力を注いできた。目指す学校像としては、生徒が自ら考え自ら学び心身共に健康で礼儀正しく生徒一人ひとりが主人公となり菊華高校を誇りに思う生き生きとした輝く学校を目指した。そして建学の精神である「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」を実現するため、校訓の「誠実・創造・健康」を日々の学校生活の中で実践的に指導し、健全な生徒の育成に努めた。その結果、令和4年度入試では推薦入試受験者が前年度よりさらに増えて、入学生の大幅な増加に繋がった。

重点取組

- 生徒の学力向上を目指して、主体的に学習に取り組むための指導と、関心・意欲を持って新たな学びに向かう力の養成を目指して生徒の学習資質と能力に対応した授業を実践した。具体的にはICT教育を導入し、プロジェクターや電子黒板、タブレット等の電子機器を授業に取り入れ、そしてリクルートのスタディーアプリを利用して家庭学習の充実を図り一定の学習成果を上げることができた。また、令和4年度新入生から改定された学習指導要領がスタートして教員研修を何度も行い評価方法や学習指導方法等を研究した。
- 進路指導については、キャリア教育の一環としてインターンシップの促進に取り組んでいたがコロナの影響で受け入れ先が激減したなかでも、受け入れてもらえる企業を開拓して何名かの生徒は職業体験ができた。3年生においては、就職希望者の就職率は100%を達成し、進学する生徒には授業後や長期休業中の補習体制を整え充実した進路指導により、ほぼ生徒の希望する進学先へ繋げた。
- 生徒募集に関しては令和3年度の入学生が304名と前年度より50名近くの増加となった。そして令和4年度は新コースがスタートし、さらなる新入生増加を目指して教職員全員が渉外活動に全力を尽くすよう努力をした。その結果、令和4年度は376名の入学者数を確保でき大幅の増加となった。そして令和5年度にむけて、さらにSNSやホームページを利用したネットを使った広報活動に力を入れた結果、令和5年度の入学者数も366名と令和4年度並みの良い結果を出した。
- 生徒指導は自立した明るい生徒の育成を目指して、教員と生徒が相互に人間として尊重し合う人間関係を築くように授業や課外活動などで積極的に関係を構築した。そしてスマホの使用とSNSの使い方を指導し、その理由を理解納得させた。また、いじめの未然防止の取り組みとして月1回は定例会として対策委員会を開き防止に努めた。

主な学校行事

4月 入学式（コロナ感染防止のため新入生のみで挙）

- 5月 PTA 総会（書面決議）、後援会総会（書面決議）、
1年保育・福祉コース保育園実習（中止）
保護者対象進路説明会（オンデマンドで開催）
- 6月 PTA 研修会（中止）
体育祭（午前と午後と半分の人数に分けて開催）
- 7月 2年姉妹校訪問
- 8月 中学生対象「夏の学校体験会」
保育・福祉コース介護実習[中止]
- 10月 文化祭
中学生対象「秋の学校体験会」
- 11月 2年修学旅行（沖縄）1・3年遠足、中学生対象「学校説明会」
- 12月 保護者会、中学生対象学校説明会、3年修学旅行（2年からの延期）
- 1月 3年スポーツクラス スキー合宿（車山高原）、3年アクトクラス卒業公演（尾張旭市文化会館）
- 2月 3年生を送る会、1・2年生アクトクラス生徒オーディション、
3年保育・福祉コース卒業研修（中止）
3年情報ビジネス科・フード・総合コース テーブルマナー
卒業式

課外活動

- （ダンス部） 第34回全日本高校大学ダンスフェスティバル（神戸）入選
- （サッカー部） 第101回全国高校サッカー選手権大会 県大会出場
- （ソフトテニス部女子）
平成4年度総体名古屋北地区大会 団体優勝 個人 県大会・東海大会出場
平成4年度国民体育大会名古屋北地区大会 団体優勝 個人 県大会出場
平成4年度名古屋スポーツ祭 団体優勝
平成4年度新人名古屋北地区大会 団体優勝 個人 県大会出場
- （野球部） 第72回愛知県高等学校優勝野球大会（春季） 県大会出場
第75回愛知県高等学校野球選手権大会（秋季） 県大会出場
- （箏曲部） 第37回愛知県高等学校文化連盟日本音楽部門（邦楽の部）優秀賞
- （ボクシング部） 令和4年度高校総体個人 県大会優勝 全国大会出場
令和4年度 国体全国大会 個人 1名出場
令和4年度 愛知県高校新人体育大会 個人5名出場 優勝4名 準優勝1名
- （卓球部） 令和4年度全国高校総体 個人 準優勝 2名出場
令和4年度国民体育大会 個人 県大会優勝
令和4年度私学祭体育大会 女子団体 3位
- （新体操） 第76回高校総体 個人 県大会出場
令和4年度新人体育大会 個人 県大会出場

【菊武ビジネス専門学校】

令和4年度も、入学者200名を確保するため、「就職・進学100%保証」というテーマのもと、プログラミング&アニメーションコースの内容充実させ、他校との差別化に取り組みました。また、一人ひとりの社会的、職業的自立（キャリア教育）に向け、挨拶をはじめとする基本的な生活習慣を身につけさせる取り組みをしました。

〈重点的な取り組み〉

1. 就職・進学100%保証を掲げ、それを推進するために企業訪問をし、求人確保や新規企業の求人確保に努めました。卒業学年に加え、1・2年生の希望者も合同企業説明会や職場体験に参加させ、早いうちから就職に対する意識づけを行うことができました。進学も学园内上級学校訪問や進路説明会をきっかけに、学园内進学に繋げることができました。
2. 中学校に出向いての進路説明会参加を積極的に依頼し、50校を超える中学校の生徒・保護者に直接、専修学校や本校の魅力を発信できたことから、入学者数を確保することができました。
3. パソコン系の検定取得率を上げるために、校内でのパソコン入力スピードコンテスト KIKUTAKE CUP(2年目)を実施したり、プログラミング & アニメーションコースの授業内容をより充実させるために、プログラミング能力検定協会主催プログラミング能力検定を1年生から受検させたりして、モチベーションを保たせ、授業の成果を発揮できる機会を増やしました。
4. eスポーツ大会への継続参加に加え新しい大会にも参加し、好成績を残すことができました。また、ユニークな部活動をテレビ番組に取り上げてもらい、「楽しい学校」という魅力を発信することができました。修学旅行も九州から沖縄に変更することで生徒の満足度を上げるとともに、充実した学校生活を送れるよう取り組みました。
5. 中間試験の廃止や毎学期の再試験を補習に変更することで、授業時間数の確保や学力向上に努めました。また、スタディサプリの到達度テストを活用し、学力の見える化を図るとともに、個々のレベルに応じた課題配信による基礎学力定着の支援を行いました。
6. コロナ禍での地域貢献として、認知症サポーター養成講座の継続受講、文化祭を通しておてらおやつクラブにお菓子や文具等の寄附、クリスマスツリーkidsパーク2022への作品出展をしました。

〈主な学校行事〉

- 4月：(高・専)入学式
- 5月：(高1・専)オリエンテーション、(2・3年)校外学習(ナガシマ)
- 7月：保護者懇談会、映画鑑賞会
中学生対象オンラインパソコン入力スピードコンテスト、専門課程集中講座
- 8月：全国パソコン技能競技大会参加
- 9月：文化祭(校外)
- 10月：文化祭(校内)、体育祭
- 12月：1年生校外学習(水族館)、3年生京都旅行、
(専)神戸旅行、2年生上級学校訪問、芸術鑑賞会(サックス演奏)
- 2月：3年生を送る会、(高)卒業式
- 3月：(専)卒業式、視聴覚講座(大道芸)、2年生修学旅行

【専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院】

令和4年度も「定員確保」をテーマに以下の4項目に取り組みました。

- 1) 学生収容数値目標 180名 (B科100名 F科50名 TB科30名)
・・・令和5年度入学生180名達成
- 2) 学生募集活動の更なる活発化
・・・①マンツーマン形式のオンラインオープンキャンパス実施
②訴求力の高いDM
③学校の今を伝えるSNS
④ファンマーケティング
⑤OODA
- 3) オープンキャンパスの充実
・・・歩留率上昇を目指して
- 4) 退学率の低下 目標値 3.0%
・・・令和4年度末6.4%

主な学校行事・教育活動

4月 入学式

オリエンテーション (1年生・2年生)

模擬結婚式場下見 (ビアンカーラ/クレールベイサイド)

ブライダル業界研究 (クラウディアコスチューム/東急ホテル)

ガーデニング (昭和の森)、園芸実習 (名城公園)、造園実習 (尾張旭実習場)

グリーンデザイン (ブルーボネット)。園芸装飾 (はままつフラワーパーク)

健康診断

5月 ブライダル総合講座 犬山日和式番館、ブライダル業界研究

(コンセプト・エフブンノイチ/ピルグリム/ストリングスホテル/コンダーハウス)

ガーデニング (ポートメッセ名古屋)、園芸実習 (鶴舞公園)

ウェディングプランナー応用 (アールベルアンジェ)、造形基礎 (愛知県美術館)

後援会総会

- 6月 ウェディングプランナー応用（アプローズスクエア）、ブライダル業界研究（タートル）
園芸実習（徳川園/松原市場）、ブライダルデザイン（シモジマ）
フラワーウェディング・フラワー装飾（名古屋港水族館）
模擬結婚式（クレールベイサイド/ピアンカーラ）
- 7月 ブライダル業界研究（アニヴェルセル白壁/アートグレースウェディングスクエア）
ブライダルヘアメイク（ナディアパーク周辺）、グリーンデザイン（星ヶ丘テラス）
ベーシックメイク（栄周辺）、ドレスメイキング（大塚屋等）、園芸装飾（咲くやこの花館）
園芸実習（名港フラワブリッジ）、ガーデニング（可児花木センター）
ドレスコーディネート（吹上ホール）、模擬結婚式（アプローズスクエア名古屋）
TB科 校内エステサロン、スポーツ大会
- 8月 模擬結婚式（アールベルアンジェ名古屋）、TB科 校内エステサロン
- 9月 ガーデニング（モザイクタイルミュージアム）、グリーンデザイン（のんほいパーク）
ビューティフード（調理実習）
前期試験
- 10月 ランドスケープデザイン（徳川園）
ガーデニング（名古屋市役所西庁舎/日本ライン花木センター）
ブライダル総合講座（愛知縣護國神社/学びの森）、F科 フラワーショップ「bEaRA」オープン
文化祭、ステップアップセミナー
- 11月 アーティストメイク（東山動植物園）、園芸実習（久屋大通公園）
ブライダル総合講座（真宗大谷派名古屋別院/名古屋市美術館）
グリーンデザイン（古川美術館）、ランドスケープデザイン（那古野茶房 花千代）
F科 技能五輪全国大会、ステップアップセミナー
- 12月 ブライダル総合講座（ゆう工房）、卒業研修旅行 沖縄、B科 リゾナーレ研修
本物の結婚式（1回目）、F科 フラワーショップクローズ、ステップアップセミナー
- 1月 ブライダル総合講座（名古屋四季劇場）、ガーデニング（三貴フラワーセンター）
本物の結婚式（2回目）、ステップアップセミナー
- 2月 フラワー総合演習（フラリエ見学）、ガーデニング（京都東山周辺）
接客コミュニケーション（名古屋マリオットホテル）、園芸実習（白鳥庭園/熱田神宮）
サロンワーク（ホットヨガスタジオ LAVA）
後期試験、卒業作品展（栄 ナディアパーク）
- 3月 ディズニー研修、卒業式・謝恩会

【菊武幼稚園】

引き続きコロナ禍の1年であり、手洗い・うがいの励行やマスクの着用・消毒を行い、感染予防に努めました。行事は内容や進め方を工夫して、「徳育・体育・知育」の3つを軸に「仲良く遊ぶ子、心も体も強い子、よく見よく聞く考える子」ひいては「自信を持って小学校に進学できる子」を育てるために取り組みました。

主な学校行事

- 4月：入園式、新入園児特別保育、始業式、4月生まれ誕生会
- 5月：5/11 春の親子遠足(落合公園)、こどもの日の集い、歯科検診、5月生まれ誕生会、内科検診
- 6月：避難訓練、交通安全指導、6月生まれ誕生会
- 7月：七夕参観、お楽しみ会、7月生まれ誕生会
- 8月：夏期特別保育、8月生まれ誕生会
- 9月：避難訓練、保育参観、9月生まれ誕生会
- 10月：運動会、秋の親子遠足(朝宮公園)、春日井まつり、10月生まれ誕生会
- 11月：交通安全指導、幼年消防クラブ、11月生まれ誕生会
- 12月：生活発表会、12月生まれ誕生会、クリスマス会
- 1月：新年こども会、避難訓練、1月生まれ誕生会
- 2月：作品展、2月生まれ誕生会、年長卒園遠足
- 3月：ひなまつりの集い、3月生まれ誕生会、卒園式、

【稲葉保育園】

「ワクワク、ドキドキ、感動がいっぱいの一年に」を全体の目標から、1歳児「遊んで、食べて、寝てにこにこ、すこやかに」、2歳児「元気いっぱい！笑顔の1年に」、3歳児「笑顔いっぱい！「友だちと一緒に」って楽しいね」、4歳児「やってみたい！やってみよう！」、5歳児「不思議！発見！感動！」。各年齢の目標に向かって様々な活動に取り組みました。

保育士の資質向上のために、公認臨床心理士による「気になる子へのアプローチの仕方」、「視覚支援の方法」、「ヘキサスロン研修：子どもの遊びと体力向上」「熱中症対策アドバイザー研修」「エピペンの使い方」「スチームコンベクションを使った調理実習」などの研修に参加した。

◎主な行事

- 4月：入園式、内科健診、誕生日会、お花で遊ぼう、身体計測、防犯訓練、災害訓練、
- 5月：こどもの日を祝う会、誕生日会、身体計測、防犯訓練、災害訓練、けん玉で遊ぼう、田植え
保育参観（1・2歳児）、歯科健診、眼科健診、保育園見学会
- 6月：さつま芋の苗付け（年長児）、音遊び、けん玉で遊ぼう（年長児）、保育参観（3・4・5歳児）
お花で遊ぼう、佐々木先生と運動遊び、誕生日会、身体計測、防犯訓練、災害訓練、保育園見学会
名古屋経営短期大学子ども学科との交流、公認臨床心理士研修、全員保育士研修
- 7月：プール開き、七夕会、佐々木先生と運動遊び、お花で遊ぼう、誕生日会、身体計測、防犯訓練
災害訓練、食育巡回指導、名古屋経営短期大学子ども学科との交流、ヘキサスロン研修
保育園見学会
- 8月：佐々木先生と運動遊び、誕生日会、身体計測、防犯訓練、災害訓練、保育園見学会
熱中症対策アドバイザー研修
- 9月：園外保育（名古屋産業大学体育館）、お花で遊ぼう、身体計測、防犯訓練、災害訓練、誕生日会、
ヘキサスロン研修、保育園見学会
- 10月：内科健診、稲刈り（年長児）、運動参観、お花で遊ぼう、音遊び、佐々木先生と運動遊び、誕生日会
修園遠足、お弁当の日、けん玉で遊ぼう、保育園見学会、身体計測、防犯訓練、災害訓練
- 11月：歯磨き指導、けん玉で遊ぼう、芋ほり、お花で遊ぼう、交通安全教室、保育参観（1・2歳児）
誕生日会、個人懇談会（3・4・5歳児）、救命救急講習会、保育園見学会、身体計測、防犯訓練、
災害訓練
- 12月：花もち作り、お花で遊ぼう、けん玉で遊ぼう、おりこーだー演奏会、クリスマス会、誕生日会
しめ縄づくり（5歳児）、卒園写真撮影会、身体計測、防犯訓練、災害訓練
- 1月：洞光院での座禅体験（5歳児）、誕生日会、身体計測、防犯訓練、避難訓練、保育園見学会
- 2月：臨床心理士研修、保育参観（1・2・3・4・5歳児）、音遊び、節分会、誕生日会、おこしもの作り
身体計測、防犯訓練、災害訓練、保育園見学会
- 3月：ひな祭り会、お弁当の日、お花で遊ぼう、けん玉で遊ぼう（けん玉修了式）、保育園見学会
名古屋経営短期大学子ども学科ゼミ発表会見学（5歳児）、身体計測、防犯訓練、避難訓練、
お別れ会、卒園式、終了式

3 各学校の事業計画の進捗・達成状況

名古屋産業大学

令和3年度に中期事業計画の最大目標であった経営専門職学科の開設をしたものの、経営専門職学科の特色を伝えきれず、経営専門職学科の入学者数は計画通りにはいきませんでした。既設学科が頑張りと、大学院を含む収容定員充足率は事業計画目標を超える97%で、財務も黒字に転換していますので、今後は、中期事業計画の遅れ、特に施設・設備面での遅れを順次取り戻していくこととなります。

名古屋経営短期大学

令和4年度の入学者が中期計画目標の47%程度に終わったため、令和5年度の収容定員充足率が50%を割り込み、私大経常費補助金が不交付になる懸念が出てきたため、各学科の入学生数の見直しを行いました。財務も更に赤字が増え計画の縮小を余儀なくされる結果となりました。

菊華高等学校

生徒募集に関しては今年度（令和4年度）入学生が376名と目標を大きく超える入学者数となり、卒業生も令和3年度より23人少なかったため在籍者数は前年度より92人増え、教育活動収入が88百万増えましたが、教育活動支出を25百万の増加に止めたので、教育活動収支差額は前年度比倍増となり、事業計画を予定通り進めることが出来ました。

菊武ビジネス専門学校

3年連続して計画目標を超える入学者数を達成した結果、収入が更に増えましたので、支出を収入の増加分の半分程度に抑える努力をして黒字幅を増やすことが出来ました。

専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院

主力のブライダルビジネス学科の入学者募集は、新型コロナウイルスの感染拡大によるブライダル業界の不振の影響を受けて苦戦を強いられていましたが、SNSを活用した広報活動とWebによるオンラインオープンキャンパスの実施など必死の広報活動の結果、計画目標には到底及ばない入学者数でしたが、132人の入学者を確保し、損益分岐点在籍者数を超える在籍者数を維持することができ、黒字幅は半減しましたが、24百万円の黒字を出すことができました。

菊武幼稚園

園児を預かる時間が長い保育園に押され、中期計画目標を大きく下回る入園児数が続きましたが、預り保育の拡充で前年度をわずかに上回る入園児数を確保することができ、何とか損益分岐点在園児数に近い在園児数を保つことが出来ましたので、授業料値上げの効果もあって、収入の減少を最小限に止めることが出来、事業計画を予定通り進めたうえで、最終的に黒字を維持することが出来ました。

4 令和4年度の各学校の主な契約

【名古屋産業大学】

物品（マイクロソフト OVS-ES ライセンス、トレンドマイクロ TRSL）売買契約
ガスヒーポン保守契約
病院実習（診療情報管理業務）委託契約
業務（HP 動画制作、SNS 用コンテンツ制作、体験授業コンテンツ制作等）委託契約
学生会館紹介に関する提携契約
無線 LAN 機器及びネットワーク機器設定業務委託契約
自動車（広報使用校用車）リース契約
各種 OA 機器リース契約

【名古屋経営短期大学】

ガスヒーポン保守契約
物品（マイクロソフト OVS-ES ライセンス、トレンドマイクロ TRSL）売買契約
教育研究用ネットワークシステム保守契約

【菊華高等学校】

業務（福祉講座、講師派遣）委託契約
統合型校務支援システムライセンス契約
新体操部講師派遣契約
物品（生徒用デスク、椅子）売買契約
インターネット出願・調査書管理システムに関する契約
学校案内パンフレット制作に関する契約
教員用 iPad 等の物品売買契約
校舎本館正面玄関外壁修繕工事請負契約
デスクトップ PC リース契約
クラウドサービスのための Microsoft365 構築業務委託契約
生徒 1 人 1 台 iPad 購入契約
第 1 情報処理室改修工事請負契約
スポーツヒルズ屋外トイレ修繕工事請負契約

【菊 武 幼 稚 園】

業務（園児食及び職員食納入）委託契約書
トイレ改修工事請負契約

【菊 武 ビ ジ ネ ス 専 門 学 校】

スタディサプリ固定導入契約
専門課程ノートパソコン売買契約
専門課程 PC 運用保守業務委託契約
校用車リース契約
4M 教室中間モニタ配線工事契約
4M 教室 IT 環境構築業務委託契約
AD サーバリース契約
2 号館高圧ケーブル及び機器更新工事請負契約
産業廃棄物処理委託契約
3 号館給水加圧ポンプ交換工事請負契約
貯水槽清掃業務請負契約
物品（50V 型テレビ、テレビスタンド）売買契約
2 号館 1 階及び保健室・生徒会室空調機更新工事請負契約
4M 教室 PC リース契約
無線 LAN 構築工事請負契約
印刷複合機リース契約
2M 天井張り替え工事請負契約
4 号館改修工事設計管理業務契約
4 号館建物調査・図面・計算書復元及びガイドライン調査業務請負契約
1 号館トイレ改修工事請負契約

【専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院】

5F チャペル修繕工事請負契約
校用車（フィールダー）リース契約
自火報設備改修工事請負契約書
校内無線 LAN 工事請負契約書
一般社団法人日本化粧品検定協会試験開催校契約

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 資金収支計算書関係

① 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
学生生徒等納付金収入	1,713,654	1,775,512	2,024,756	1,947,609	1,889,174
手数料収入	26,684	32,028	28,745	30,512	33,501
寄付金収入	5,737	3,815	5,040	15,340	3,490
補助金収入	638,869	591,163	649,185	779,023	837,694
資産売却収入	200,001	2	299,996	212,398	4
付随事業・収益事業収入	13,664	11,163	11,661	42,940	23,239
受取利息・配当金収入	8,731	9,279	9,372	9,848	11,918
雑収入	46,470	91,353	41,018	45,042	66,253
借入金等収入	0	0	0	0	250,000
前受金収入	443,069	547,865	472,144	443,506	467,269
その他の収入	256,136	87,476	173,351	141,528	114,114
資金収入調整勘定	△513,084	△537,931	△609,855	△552,632	△524,443
前年度繰越支払資金	1,245,179	1,225,348	1,359,919	1,623,230	1,819,793
収入の部合計	4,085,110	3,837,073	4,465,332	4,738,344	4,992,006

支出の部	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
人件費支出	1,639,088	1,664,295	1,595,813	1,642,096	1,655,546
教育研究費支出	452,136	452,204	570,921	511,021	526,731
管理経費支出	218,616	211,846	199,106	216,809	206,360
借入金等利息支出	990	660	330	0	749
借入金等返済支出	43,212	34,439	30,000	0	50,000
施設関係支出	198,724	93,968	37,509	105,243	316,830
設備関係支出	37,710	52,263	23,483	76,903	50,003
資産運用支出	290,063	30,000	309,906	352,939	200,040
その他の支出	55,273	73,878	146,690	82,827	79,828
資金支出調整勘定	△76,050	△136,499	△71,746	△69,287	△105,149
翌年度繰越支払資金	1,225,348	1,359,919	1,623,230	1,819,793	2,011,068
支出の部合計	4,085,110	3,837,073	4,465,332	4,738,344	4,992,006

② 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,416,179	2,503,280	2,753,019	2,845,839	2,850,595
教育活動資金支出計	2,309,840	2,328,444	2,365,030	2,368,557	2,387,535
差引	106,339	174,836	387,989	477,282	463,060
調整勘定等	39,440	136,832	△84,229	△59,621	67,028
教育活動資金収支差額	145,779	311,668	303,760	417,661	530,088
施設設備等活動による資金収支					
施設設備等活動資金収入計	28,009	1,718	7,264	67,475	19,649
施設設備等活動資金支出計	236,435	146,231	70,992	232,145	566,832
差引	△208,426	△144,513	△63,728	△164,670	△547,183
調整勘定等	△15,434	19,514	△27,293	7,123	△2,400
施設設備等活動資金収支差額	△223,860	△124,999	△91,021	△157,547	△549,583
小計（教育活動資金収支差額＋施設設備等活動資金収支差額）		△78,081	212,739	260,114	△19,495
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	402,180	16,763	388,006	250,033	278,764
その他の活動資金支出計	343,930	68,861	337,434	313,584	67,994
差引	58,250	△52,098	50,572	△63,551	210,770
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	58,250	△52,098	50,572	△63,551	210,770
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△19,831	134,571	263,311	196,563	191,275
前年度繰越支払資金	1,245,179	1,225,348	1,359,919	1,623,230	1,819,793
翌年度繰越支払資金	1,225,348	1,359,919	1,623,230	1,819,793	2,011,068

③ 活動区分資金収支計算書教育活動資金収支差額比率の経年比較

比 率	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
教育活動資金収支差額	6.0%	12.5%	11.0%	14.7%	18.6%

※比率の意味 教育活動資金収支差額比率は、教育活動収支差額の教育活動資金収入に占める割合を示し、学校法人の本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出しているかを測る比率です。

(2) 事業活動収支計算書

① 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	
教 育 活 動 収 支	収 入 の 部	学生生徒等納付金	1,713,654	1,775,512	2,024,756	1,947,609	1,889,175
		手数料	26,716	32,066	28,787	30,548	33,535
		寄付金	6,815	4,468	5,605	17,417	4,736
		経常費等補助金	610,862	589,447	641,921	764,548	835,045
		付随事業収入	13,664	11,163	11,661	42,940	23,239
		雑収入	45,822	91,530	40,932	44,937	66,146
		教育活動収入計	2,417,533	2,504,186	2,753,662	2,847,999	2,851,876
	支 出 の 部	人件費	1,646,660	1,664,911	1,591,555	1,631,315	1,641,299
		教育研究経費	713,533	720,172	844,388	782,662	793,970
		管理経費	244,783	237,667	224,302	241,130	230,074
		徴収不能額等	398	63	353	549	1,175
		教育活動支出計	2,605,374	2,622,813	2,660,598	2,655,656	2,666,518
	教育活動収支差額		△187,841	△118,627	93,064	192,343	185,358
教 育 活 動 外 収 支	収 入	受取利息・配当金	8,731	9,279	9,372	9,848	11,918
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	8,731	9,279	9,372	9,848	11,918
	支 出	借入金等利息	990	660	330	0	749
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	990	660	330	0	749
教育活動外収支差額		7,741	8,619	9,042	9,848	11,169	
経常収支差額		△180,100	△110,008	102,106	202,191	196,527	
特 別 収 支	収 入	資産売却差額	1	2	0	0	4
		その他の特別収入	29,206	3,521	8,584	18,725	7,216
		特別収入計	29,207	3,523	8,584	18,725	7,219
	支 出	資産処分差額	5,187	1,663	7,318	13,495	1,934
		その他の特別支出	0	0	810	1,370	1,103
		特別支出計	5,187	1,663	8,128	14,865	3,037
	特別収支差額		24,020	1,860	456	3,860	4,182
基本金組入前当年度収支差額		△156,080	△108,148	102,562	206,051	200,709	
基本金組入額合計		△33,920	△65,917	△22,061	△32,871	△35,301	
当年度収支差額		△190,000	△174,065	80,501	173,180	165,408	
前年度繰越収支差額		△4,923,949	△5,113,949	△5,288,01	△5,207,513	△5,034,333	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△5,113,949	△5,288,014	△5,207,513	△5,034,333	△4,868,925	

(参考)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業活動収入計	2,455,471	2,516,989	2,771,618	2,876,572	2,871,013
事業活動支出計	2,611,551	2,625,137	2,669,056	2,670,521	2,670,304

② 事業活動収支計算書財務比率（経営状況）の経年比較

比 率	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
人件費率	67.1%	66.1%	57.6%	57.1%	57.3%
人件費依存率	96.1%	93.8%	78.6%	83.8%	86.9%
教育研究経費（構成）比率	29.4%	28.7%	30.6%	27.4%	27.7%
管理経費率	10.1%	9.5%	8.1%	8.4%	8.0%
学生生徒等納付金比率	70.6%	70.6%	73.3%	68.1%	66.0%
事業活動収支差額比率	△6.4%	△4.2%	3.7%	7.2%	7.0%

※比率の意味

人件費比率……………人件費の経常収入に占める割合。人件費は学校法人における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因となる。

教職員 1 人当り人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適した水準を維持する必要がある。

人件費依存率……………人件費の学生生徒等納付金に占める割合。人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっているのが理想であるが、高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒等納付金が低い水準に抑えられていることから、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」を求めて評価することも有用。

教育研究経費（構成）比率…教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費は、教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高い方がよい。

管理経費比率……………経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。

学生生徒等納付金比率……学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入の中で最大の割合を占める学生生徒等納付金は、補助金や寄付金に比べ外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であるので、この比率は安定的に推移することが望ましい。

経常収支差額比率……………事業活動収支計算書においては、収入支出を教育活動、教育活動外、特別活動の 3 つに区分して、それぞれの区分における収支バランスを把握できる構造になっているが、この比率はそのうち臨時的な要素を除いた経常的な活動に関する部分の収支バランスを表す比率。

(3) 貸借対照表

① 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
資 産	固定資産	12,683,541	12,566,700	12,302,587	12,187,538	12,446,061
	有形固定資産	10,691,266	10,544,644	10,300,687	10,185,529	10,264,090
	特定資産	1,970,063	2,000,000	1,980,000	1,979,940	2,160,040
	その他の固定資産	22,212	22,056	21,900	22,069	21,931
	流動資産	1,327,235	1,477,590	1,707,796	2,003,691	2,193,876
資産の部合計		14,010,776	14,044,290	14,010,383	14,191,229	14,639,937
負 債	固定負債	426,251	416,382	390,414	386,756	520,110
	流動負債	667,031	818,562	708,061	686,514	801,219
負債の部合計		1,093,282	1,234,944	1,098,475	1,073,270	1,321,329
基 本 金		18,031,443	18,097,360	18,119,421	18,152,293	18,187,594
繰越収支差額		△5,113,949	△5,288,014	△5,207,513	△5,034,333	△4,868,986
純資産の部合計		12,917,494	12,809,346	12,911,908	13,117,960	13,318,608
負債及び純資産の部合計		14,010,776	14,044,290	14,010,383	14,191,230	14,639,937

② 貸借対照表財務比率（財務状況）の経年比較

比 率	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
運用資産余裕比率	117.6%	121.7%	132.9%	143.7%	147.9%
流動比率	199.0%	180.5%	241.2%	291.9%	273.8%
負債比率	8.5%	9.6%	8.5%	8.2%	9.9%
固定長期適合率	95.1%	95.0%	92.5%	90.2%	89.9%
前受金保有率	276.6%	248.2%	343.8%	410.3%	430.7%
基本金比率	99.5%	99.5%	99.8%	99.8%	98.6%

比率の意味

運用資産余裕比率……運用資産から外部負債を差し引いた金額が経常支出の何倍かを示す比率で、学校法人の1年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標。

流動比率……流動負債に対する流動資産の割合を示す比率で、学校法人の資金流動性即ち短期的な支払い能力を表す指標。一般に金融機関等では200%以上であれば優良と見做す。

負債比率……他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率。100%以下で低い方が望ましい。

固定長期適合率……固定資産を取得する場合に、長期間活用できる安定した資金として自己資金の他短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則にどれだけ適合しているかを示す指標。

前受金保有率……………前受金と現金預金の割合。当年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。

基本金比率……………基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合を表す比率。100%に近いほど未組入額が少ないことを示す。未組入額があることは即ち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。

(4) その他

① 有価証券の状況

有価証券の時価情報

種 類	勘定科目 (有価証券の種類)	当年度 (令和5年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	減価償却引当特定資産	200,000,000 円	200,160,000 円	160,000 円
	学園拡充引当特定資産	200,000,000 円	200,620,000 円	620,000 円
(うち満期保有目的の債券)		(400,000,000 円)	(400,780,000 円)	(780,000 円)
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	減価償却引当特定資産	410,000,000 円	407,520,000 円	△2,480,000 円
	学園拡充引当特定資産	200,000,000 円	197,170,000 円	△2,830,000 円
	有価証券	100,000,000 円	94,680,000 円	△5,320,000 円
(うち満期保有目的の債券)		(610,000,000 円)	(604,690,000 円)	(△5,310,000 円)
合計	減価償却引当特定資産	610,000,000 円	607,680,000 円	△2,320,000 円
	学園拡充引当特定資産	400,000,000 円	397,790,000 円	△2,210,000 円
	有価証券	100,000,000 円	94,680,000 円	△5,320,000 円
(うち満期保有目的の債券)		(1,010,000,000 円)	(1,005,470,000 円)	(△4,530,000 円)

② 借入金の状況

当学園の借入金は下表のとおりです。

借入金は、菊武ビジネス専門学校1号館東側の土地・建物を購入し、建物を教室に改修して使用するため総額4億5千万円の資金が必要となり、2億5千万円を5年返済の借入としましたが、借入年度中に5千万円を返済しましたので、残りは2億円となっています。

(借入金明細表)

(単位：千円)

借 入 先	R3 年度末残高	R4 年度末残高	増 減	摘 要
市中金融機関 (名古屋銀行)	0	200,000	200,000	土地・建物取得資金
合 計	0	200,000	200,000	

③ 学校債の状況

当学園は、学校債を発行いたしておりません。

④ 寄付金の状況と経年比較

当学園に対する寄付金の状況は、以下のとおりです。

(単位：千円)

種 類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
特別寄附	197	0	0	11,750	0
一般寄付	5,540	3,815	5,040	3,590	3,490
現物寄付（施設設備以外）	1,078	653	565	2077	1,246
現物寄付（施設設備）	306	1,767	1,199	4,095	4,459

⑤ 補助金の状況と経年比較

当学園に対する補助金の状況は、以下のとおりです。

(単位：千円)

種 類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
国庫補助金（一般）	103,722	91,528	121,600	194,680	184,934
国庫補助金（施設設備）	0	0	5,584	8,983	933
地方公共団体補助金（一般）	507,139	497,919	520,321	569,868	650,111
地方公共団体補助金（施設設備）	28,008	1,716	1,680	5,492	1,716
合 計	638,869	591,168	649,185	779,028	837,744

⑥ 収益事業の状況

2011年(平成23年)から尾張旭市立稲葉保育園の管理運営事業を収益事業として行っています。

1期目は3年間、2期目は10年間の指定管理となっており、令和4年度は12年目で指定管理の期間は、平成26年4月1日から令和6年3月31日までの10年間です。

当学園の収益事業の事業活動計算書の状況を経年比較したものは、次頁のとおりです。

社会福祉事業 事業活動計算書

(単位：円)

科 目		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
収 益	保育事業収益	69,601,000	69,035,000	68,740,500	71,794,000	73,259,500
	雑収入	386,400	1,983,900	2,960,964	3,313,150	7,145,820
サービス活動収益計(1)		69,987,400	71,018,900	72,084,442	76,038,930	80,405,320
費 用	人件費	57,827,748	60,646,260	60,761,697	66,972,238	70,351,310
	事業費	6,809,024	7,026,974	7,132,357	6,775,895	6,846,761
	事務費	2,066,824	2,307,390	2,476,757	2,639,620	2,582,509
サービス活動費用計(2)		66,839,190	70,116,218	70,405,607	76,470,949	79,937,751
サービス活動増減差額(3)=(1)－(2)		3,148,210	902,682	1,678,835	△432,019	467,569
	利用者等外給食収益	807,760	870,220	871,350	918,990	936,340
	雑 収 入	0	0	100,000	150,000	0
サービス活動外収益計 (4)		807,760	870,220	971,350	1,068,990	936,340
サービス活動外費用計(5)		0	0	0	0	0
サービス活動外増減差額(6)=(4)－(5)		807,760	870,220	971,350	1,068,990	936,340
経常増減差額 (7) = (3) + (6)		3,955,970	1,772,902	2,650,185	636,971	1,403,909
特別収益計(8)		0	0	0	0	0
特別費用計(9)		0	0	0	0	0
特別増減差額(10)=(8)－(9)		0	0	0	0	0
当期活動増減差額(11)=(7)＋(10)		3,955,970	1,772,902	2,650,185	636,971	1,403,909
繰 越 増 減 差 額	前期繰越活動増減差額(12)	31,619,088	35,575,058	37,347,960	40,388,145	41,025,116
	当期末繰越活動増減差額(13)	35,575,058	37,347,960	39,998,145	41,025,116	42,429,025
	基本金取崩額(14)	0	0	390,000	0	0
	その他積立金取崩額(15)	0	0	0	0	0
	その他積立金積立額(16)	0	0	0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)＋(14)＋(15)－(16)	35,575,058	37,347,960	40,388,145	41,025,116	42,429,025

⑦ 関連当事者等との取引の状況

関連当事者との取引は、次のとおりである。

当事者名：株式会社キクタケ（資本金：1千万円 名古屋市東区 文具、OA機器等販売業）

関 係：常務理事の弟（理事長の叔父）が代表者

年間取引額：24,692,603 円

期末未払金残高：246,089 円

IV. 学校法人間財務取引

当学校法人と他の学校法人との財務取引はございません。

V. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策、

令和4年度も経営計画に沿って各部門の自立のための在籍者数を明示して事業計画を推進し、学園全体としての黒字定着化を目指しました。中期経営計画における各部門の入学者獲得目標・在籍者目標及び実績は次頁の表の通りでした。

入学者・在籍者目標及び実績

令和4年5月1日現在

	大 学	短 大	高 校	通信制	幼稚園	菊専門	NWFB	全 体
入学者目標	200 人	205 人	300 人	190 人	72 人	200 人	180 人	1,347 人
入学者実績	164 人	96 人	376 人	242 人	59 人	244 人	132 人	1,313 人
目標対比	△36 人	△109 人	76 人	52 人	△13 人	44 人	△48 人	△34 人
在籍者目標	750 人	385 人	800 人	560 人	209 人	500 人	300 人	3,504 人
在籍者実績	762 人	262 人	871 人	663 人	175 人	614 人	249 人	3,596 人
目標対比	12 人	△123 人	72 人	103 人	△34 人	114 人	△51 人	93 人

※学校名のNWFBは、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院を言う

中期事業計画に基づき各部門の事業計画に明記された令和4年度の入学者獲得目標・在籍者目標は、全部門が達成とまではいきませんでした。学園全体としては、目標を超える成果を上げることができました。在籍者目標は、各部門の入試広報体制の実情に応じてたてられている為、損益分岐点在籍者数に達していない部門もありますので、本部を除く全部門黒字化とまではいっていませんが3期連続して学園全体としての黒字化は達成することができました。

「少子化の進展とともに年々厳しくなる学生・生徒・園児募集にどれだけ成果を挙げられるか？」言い換えれば「各部門が自立に必要な入学者を安定的に確保し、中途退学者を減らし、損益分岐点在籍者以上の在籍者を安定的に確保していくこと」が対処すべき最優先課題であることになりました。大学の現代ビジネス学部経営専門職学科を開設し、高校のITビジネス科を共学にしたことで入学者受け入れの窓口が広がり、それを起爆剤として大学・高校の入学者を安定的・継続的に確保していくことが重要です。短大や幼稚園など入学者（入園者）確保に苦しんでいる部門は、在籍者数を損益分岐点在籍者数迄引き上げるため、知恵を出し、汗を出し、それぞれにおいて試行錯誤しながら財政的に自立できる入試広報体制の構築と教育改革を図っていきます。